



## 子どもの安全のために

水と安全はタダ、日本のことをそう表現していた時期がありました。今や隔世の感があります。最近は暗くなるのも早く、子ども達の安全を守るためにも以下のことをお話しくだされば幸いです。

### 1、「知らない人についていかない」は危険

子どもにとっての知らない人というのは、大人の考える知らない人とは違います。素性や人格がわからない人のことを大人は知らない人と考える。子どもは、全く見たことがない人が知らない人で、一度でも見た人や一度でも挨拶した人は、知っている人になります。知らない人とはどういう人かをはっきり示してあげてください。

基本は「**おうちの人以外**はついていかない」です。

### 2、「あやしい人には近づかない」は危険

テレビドラマの犯人役のような乱暴な言葉使いで子どもに話しかける犯罪者はいません。悪いことをする人が怖くて悪そうな顔をしているのはドラマの中だけです。犯罪者は、子どもの恐怖心や警戒心を取り除くために、丁寧な言葉使いや優しい笑顔で近づいてきます。あるニュースで、睡眠薬入りの飴を渡された小学生が、犯人のことを「優しそうなお兄さん」と話していました。

あやしい人も具体的に教えておいてください。年齢、性別や外見では判断ができません。優しそうな人、笑顔の人だからと言って安心とは言えません。あやしい人とは「**ふさわしくない人**」です。その場にその時間帯にいるのがふさわしくない人が怪しい人です。周りに人のいないところで話しかけてくる人。暗い道で話しかけてくる人。普段見かけないのに声をかけてくる人。そういう人には近づかない。話しかけられても答えない。すぐにその場を離れる。そういうことをお話ししてあげてください。

### 3、「危ない場所には近づかない」は危険

危ない場所とはどういう場所であるかも具体的に示してあげてください。

#### ① 近づきやすく、逃げやすい場所

誰でも入ることができて、簡単に逃げられる場所「公園」「公衆トイレ」「ビルとビルの間の空き地」「駐車場」などの不特定多数の人が行き来している場所は要注意です。特に駐車場は、車に押し込められると簡単に連れ去られてしまいます。

#### ② 人の目が届きにくい場所

犯罪者は見られることを恐れます。高い塀がある。木々が鬱蒼としている。街灯が少なく暗い道などです。お子様と一緒に校区を歩いて、どこが危険なのか、なぜ危険なのかもお話ししてあげると、別の場所でも自己判断の基準となります。

